

阿達国土交通大臣政務官が厳原港・比田勝港を視察

令和元年5月19日に阿達国土交通大臣政務官が対馬市内の重要港湾「厳原(いづはら)港」・地方港湾「比田勝(ひたかつ)港」など、港湾関係施設を中心に視察しました。

長崎県対馬市は韓国まで約50kmで、毎日多くの韓国人旅行客が高速船を利用して訪れており、2018年の外国人入国者数は過去最多の年間41万人を記録しました。特に比田勝港は日本で最も外国人入国者が多い港湾となっています。

まず、対馬島のほぼ中央に位置し、対馬の東岸と西岸を往来する船舶の航路、要衝として重要な役割を果たしている「万関瀬戸航路」を万関橋の拡幅展望部より視察しました。万関瀬戸航路は、全国に15区域指定されている「開発保全航路」のひとつで、その重要性から、国により開発及び保全を行っています。

次に、比田勝港では、比田勝対馬市長より施設の状況説明を受け、韓国人旅行客で日本一混雑するターミナル内の様子や、その気軽な旅行姿を目の当たりにし、驚嘆していました。

厳原港では、国・県・市で現在進めている「離島ターミナル整備事業」の整備計画や進捗状況を確認しました。

最後に、国の公共事業系出先機関として唯一立地している当事務所の厳原港分室にも立ち寄り、業務内容の確認と職員への激励がありました。



(写真1) 橋上からの万関瀬戸航路視察の様子



(写真2) 比田勝対馬市長より状況説明
比田勝港ターミナル視察の様子



(写真3) 厳原港視察の様子



(写真4) 阿達政務官と厳原港分室職員等